特集「ユビキタスコンピューティングシステム（IV）」の編集にあたって

椎尾 一郎[1,a)]

2003 年 4 月に設立されたユビキタスコンピューティングシステム研究会（SIGUBI）は，ユビキタスコンピューティングを研究領域とする研究者の議論の場を提供してきた．また，2008 年から不定期で「ユビキタスコンピューティングシステム」特集を編纂している．本特集「ユビキタスコンピューティングシステム（IV）」はその 4 回目にあたる特集である．

SIGUBI が対象としているユビキタスコンピューティングの分野は，センシング，情報理論，ネットワーキング，モバイルコンピューティング，ウェアラブルコンピューティング，ミドルウェア，ヒューマン・コンピュータインタラクション，および各種アプリケーション技術など，情報科学と工学の多方面にわたるテーマを取り扱っている．一方で，情報処理学会が対象とするどの研究分野においても，ユビキタスコンピューティングに関わりのある研究は増えていると感じている．近い将来には，現在のパーソナルコンピューティングのように，ユビキタスコンピューティングという枠組み自体が意味のないものになるかもしれない．そのような状況で，ユビキタスコンピューティングに関する最新の研究特集を，皆様のご尽力により編纂できたことで，この分野の研究者だけでなく，本学会全体の発展にも寄与するのではと考えている．

本特集はゲストエディタ制により，文末に記した特集号編集委員会の責任で編集を行った．投稿論文数は 34 件（2 件が後に取り下げ）であった．2014 年 5 月 8 日に委員長と幹事がオンラインでミーティングし，編集委員が手がけている研究テーマと専門を考慮しつつ，メタ査読を割り当てた．割り当て論文数は 1 人当たり 1 または 2 編である．メタ査読を担当した委員は，それぞれの論文内容に関して高い専門知識を持つ査読者 2 名を割り当てた．1 回目の査読結果がそろった 2014 年 7 月 8 日に，委員が会して（一部委員はオンライン参加）審査を行い，13 件を条件付き採録とした．投稿者からの回答に基づく 2 回目の査読結果が揃った 2014 年 10 月 1 日に，再び編集委員会を開催し，取り下げの 1 件を除いた 12 件を採録とした．取り下げ論文を除外した投稿論文 32 件に対する採択率は 38%となり，当初予定していた採択率 50%を下回る結果となった．その一方で，採択となった論文は，どれもそのテーマに関する高い専門知識を持つ査読者が納得した優れた論文であり，クオリティの高い論文を厳選する結果となったと考えている．

採択された論文は，ユビキタスコンピューティングを実現するための，センシング，ネットワーク，電力供給，開発ツール，行動記録・解析，ユーザインタフェースの技術と応用をテーマとしており，この分野の研究を広くカバーしたものになった．一方，惜しくも不採録になった論文では，ユビキタスコンピューティングとしての意義に関する主張や評価が不十分なために，技術的な新規性や妥当性についての疑問が寄せられたケースが散見されたように思う．成熟した透明な技術を目指す研究が評価される際に陥りやすい状況かもしれない．着眼点に優れたものも多かったので，論文構成を再検討し再投稿されることを期待したい．

最後に，本特集の実現にご尽力いただいた幹事，編集委員，査読者，投稿者の皆様，ならびに学会事務局の皆様に，深く感謝致します．

「ユビキタスコンピューティングシステム（IV）」特集編集委員会

- 編集長
  椎尾一郎（お茶大）
- 幹事
  井上創造（九州工大）
- 編集委員
  岩本健嗣（富山県大），植原啓介（慶應大），大内一成（東芝），大村　廉（豊橋技科大），川原圭博（東京大），坂本大介（東京大），角　康之（はこだて未来大），関根理敏（沖電気），丹　康雄（北陸先端大），塚田浩二（はこだて未来大），辻田　眸（東京大），寺田　努（神戸大），土井裕介（東芝），徳田英幸（慶應大），戸田真志（熊本大），中澤　仁（慶應大），中村隆幸（NTT），西尾信彦（立命館大），西村康孝（KDDI 研），藤波香織（東京農工大），前川卓也（大阪大），増井俊之（慶應大），村尾和哉（神戸大），柳沢　豊（NTT），），吉高淳夫（北陸先端大），米澤拓郎（慶應大）

1　お茶の水女子大学理学部情報科学科
Faculty of Science, Ochanomizu University, Bunkyo, Tokyo 112–8610, Japan
a)　siio@acm.org

© 2015 Information Processing Society of Japan